

留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 村瀬 吏胡（オーストリア）

私は約10ヶ月間、オーストリアに留学しました。留学を決めた理由は、異文化を経験し、新しい考え方や自分を見つけ、人間として成長したいと考えたからです。不安もありましたが、新しい環境に挑戦したいという気持ちが強く、留学を決意しました。

留学先の高校では、さまざまな教科の授業を現地の生徒と一緒に受けました。特に、英語の授業のレベルが高く、自分と周りの英語力を比べてしまうことがありました。しかし、周りの友達の助けや、先生の支援のおかげで、徐々に自分の考えを英語で伝えられるようになっていきました。授業では、生徒たちが意欲的に授業に参加していて、積極的に学ぼうとする姿勢に私も頑張りたいと感化されました。

ホストファミリーとの生活は日本の家族とのギャップもあり、大変なことが多くありました。性格や考え方の違いで意見がすれ違うことが多々あり、よいことばかりではありませんでした。ホームステイは想像以上に難しいものでした。しかし、共に生活し、一緒に何かをしていく中で、段々と自分の意見とホストファミリーの意見を反映させた生活にしていけることができました。旅行に連れて行ってもらったり、家事を手伝ったり、運動をしたり、様々なことを一緒にしました。そのような経験を積み重ねる中で、お互いを知っていき、みんなが心地よく生活できる暮らしに近づけていくことができました。ホームステイはとても大変でしたが、新しい生き方や新しい考え方に触れるきっかけになり、他人の価値観を尊重する大切さを学びました。また、日本の家族と離れて生活することで、家族のありがたみを再認識し、より一層大切にしたいと思うことができました。

オーストリアでの生活で印象的だったのが、環境に配慮した生活です。ゴミの分別に積極的で、家庭には生ごみを捨てるコンポストがありました。節水のためシンクに水を溜めて食器を洗っていたことや、ペットボトルやアルミ缶のデポジット制度には驚きました。このように、環境を大切にしようとする生活から、私も節水を心掛け、リサイクルや分別に以前より関心を持つようになりました。

留学生活は楽しいことだけでなく、困難なこともたくさんありました。留学準備も含めた2年間で私は自分で行動する力や自立した大人になるための力を大きく養うことができました。諦めそうになる瞬間が多々ありましたが、その度に困難を乗り越えてきたことで、自分に新しい自信を持つことができました。この経験を活かし、多くの人と協力しながら成長し続けられる人になりたいです。